



shaping your dreams

2026年11月期 第3四半期 決算説明資料

オーエスジー株式会社
2026年10月



目次

◆ P2-3	<u>決算ハイライト</u>	◆ P17	<u>設備投資・減価償却費</u>
◆ P4-5	<u>会社概要</u>	◆ P18	<u>2026年11月期 業績予想</u>
◆ P6-7	<u>決算概要</u>	◆ P19	<u>株主還元方針</u>
◆ P8-9	<u>外部顧客への売上高（セグメント別）</u>	◆ P20	<u>為替レート</u>
◆ P10-11	<u>セグメント利益</u>	◆ P21	<u>業績・経営指標</u>
◆ P12-13	<u>製品別売上高</u>	◆ P22	<u>OSGグループネットワーク</u>
◆ P14	<u>海外売上高</u>	◆ P23-	<u>中期経営計画</u>
◆ P15	<u>営業利益の増減分析</u>		
◆ P16	<u>BS主要指標とBS概要</u>		

決算ハイライト (1/2)

P/L

売上高、営業利益、経常利益、純利益ともに
3Q3ヶ月及び3Q累計で過去最高額を更新
全セグメントで3Q累計の売上高・営業利益が過去最高

連結業績予想の上方修正

売上高 1,930億円、営業利益 360億円、営業利益率 18.7%
EPS 288.48円、年間配当金 130円

BS

棚卸資産は前期末比109億円増加

増加要因

為替 +16億円

超硬材料の価格高騰に伴う原材料、仕掛品の増加が主要因

資本
政策

自社株式の取得

取得金額 50億円（上限）

取得期間 2026年10月13日～2026年11月30日

取得方法 東京証券取引所における市場買付け（立会外買付取引を含む。）

取得理由 株主還元の充実及び資本効率の向上を図るため

KEYとなる指標

売上高

1,432億円

前年同期比：+23.5%

営業利益

275億円

前年同期比：+100.2%

営業利益率

19.2%

前年同期比：+7.4pt

EPS

259.72円

前年同期比：+125.2%

EBITDA

378億円

前年同期比：+58.9%

EBITDAマージン

26.4%

前年同期比：+5.9pt

自己資本比率

70.2%

前期末比：+2.7pt

ROE

14.9%

前年同期比：+7.3pt

決算ハイライト (2/2)

米州

米国は航空防衛、医療、エネルギー分野で需要拡大。関税還付金9億円強の計上もあり、3ヶ月間のセグメント利益率は29.8%を記録。

アジア

中国は半導体製造装置関連、データセンター、自動化・省人化設備向けの需要拡大。南アジアでも半導体の周辺機器、エネルギー関連が好調。

欧州・アフリカ

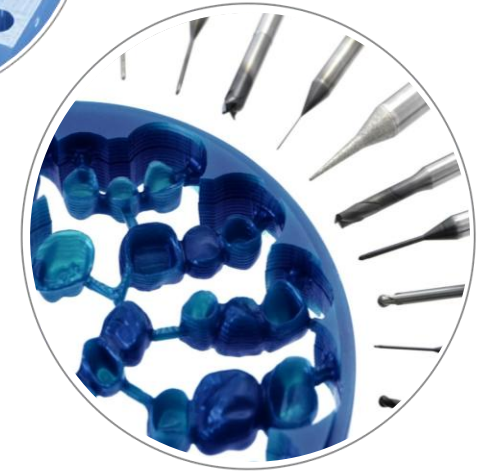
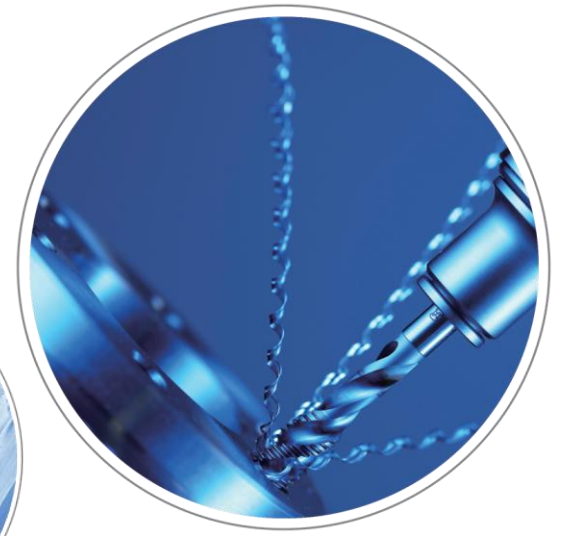
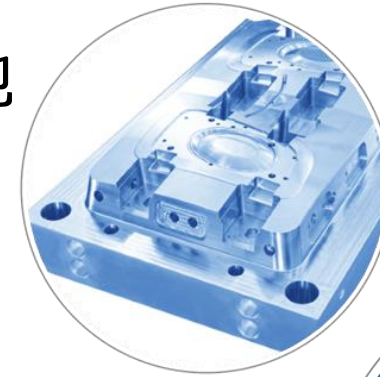
欧州は航空防衛、医療、エネルギー分野を手掛ける拠点を中心に業績好調。ドイツ拠点も回復。

日本

景況感に変化なし。海外グループ会社向け輸出の増加に伴う操業度向上、原材料関連事業における価格改定効果と材料価格上昇の反映時期の乖離により、収益性が改善。

会社概要

商 号 オーエスジー株式会社
本 社 愛知県豊川市本野ヶ原三丁目22番地
設 立 1938年3月26日
資 本 金 130億44百万円
従業員数 連結7,564名、単体1,852名
事業内容 切削工具、転造工具の製造販売
上場市場 東証プライム・名証プレミアム (証券コード 6136)



注意事項

- この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。
 - これらの記述は、当社が現時点で把握可能な情報からの判断に基づくものであり、既知あるいは未知のリスクや不確定な要素を含んでいます。
- そのため、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

会社概要

製品

- ・主に工作機械で使われる消耗工具
- ・創業製品である**タップ**は
世界トップシェア（約30%超）

OSGの強み

- ・高付加価値製品を生み出す高い技術力
- ・堅固なお客様サポート体制
- ・世界35カ国に渡る
グローバルネットワーク

形を削り出す工具

エンドミル
(ミーリングカッター)

形を削り出す工具

インデキサブル工具

穴をあける工具
ドリル

ねじ穴をつくる工具

タップ
(ねじ切り工具)

ねじを加工する工具
転造ダイス

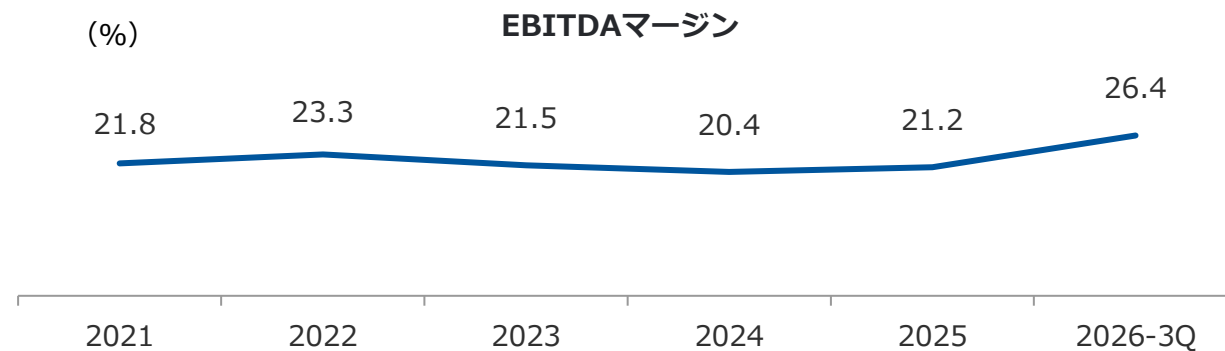
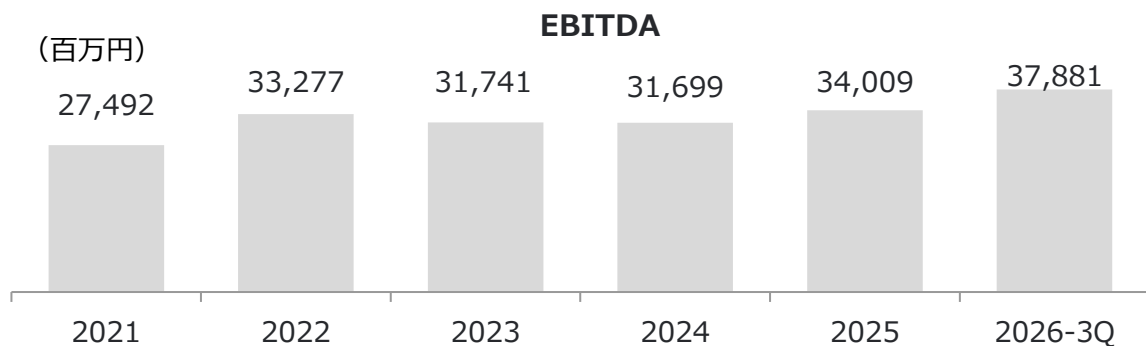


決算概要

(百万円)

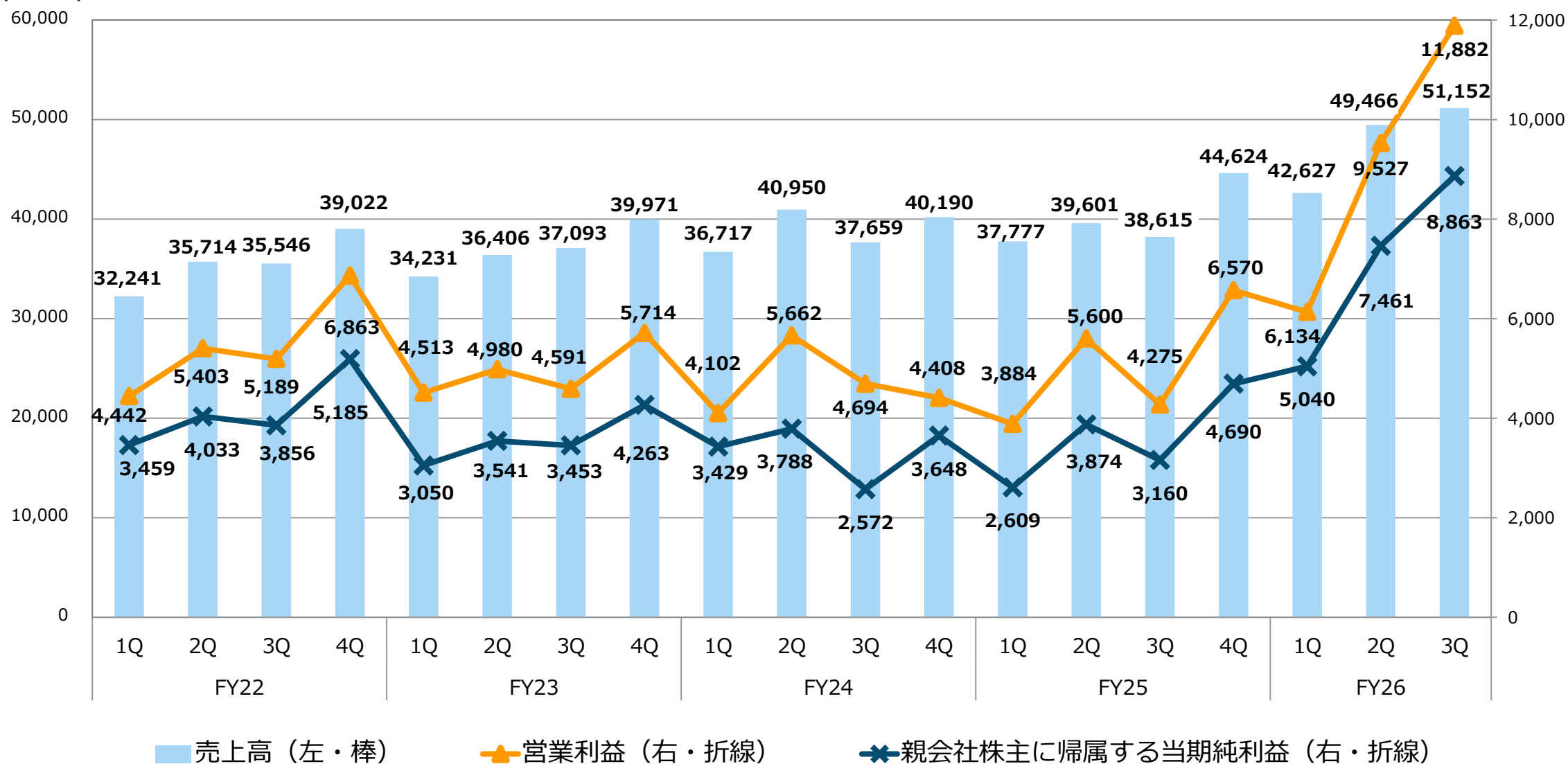
	FY25				FY26				前年同期比		FY26※ 通期予想	進捗率
	1Q	2Q	3Q	3Q累計	1Q	2Q	3Q	3Q累計				
売上高	37,777	39,601	38,615	115,994	42,627	49,466	51,152	143,245	27,250	+23.5%	185,000	77.4%
営業利益	3,884	5,600	4,275	13,759	6,134	9,527	11,882	27,543	13,783	+100.2%	30,000	91.8%
営業利益率	10.3%	14.1%	11.1%	11.9%	14.4%	19.3%	23.2%	19.2%	7.4pt	-	16.2%	-
経常利益	4,155	5,760	5,072	14,988	6,694	10,445	12,355	29,495	14,506	+96.8%	32,000	92.2%
親会社株主に 帰属する当期純利益	2,609	3,874	3,160	9,643	5,040	7,461	8,863	21,364	11,720	+121.5%	21,000	101.7%
EPS (円)	30.73	46.21	38.38	115.32	61.35	90.81	107.56	259.72	144.40	+125.2%	255.28	-
EBITDA	7,200	8,920	7,712	23,834	9,624	12,938	15,317	37,881	14,046	+58.9%	-	-
EBITDAマージン	19.1%	22.5%	20.0%	20.5%	22.6%	26.2%	29.9%	26.4%	5.9pt	-	-	-

※FY26通期予想は、2026年7月10日公表の業績予想に基づいています。



決算概要

(百万円)



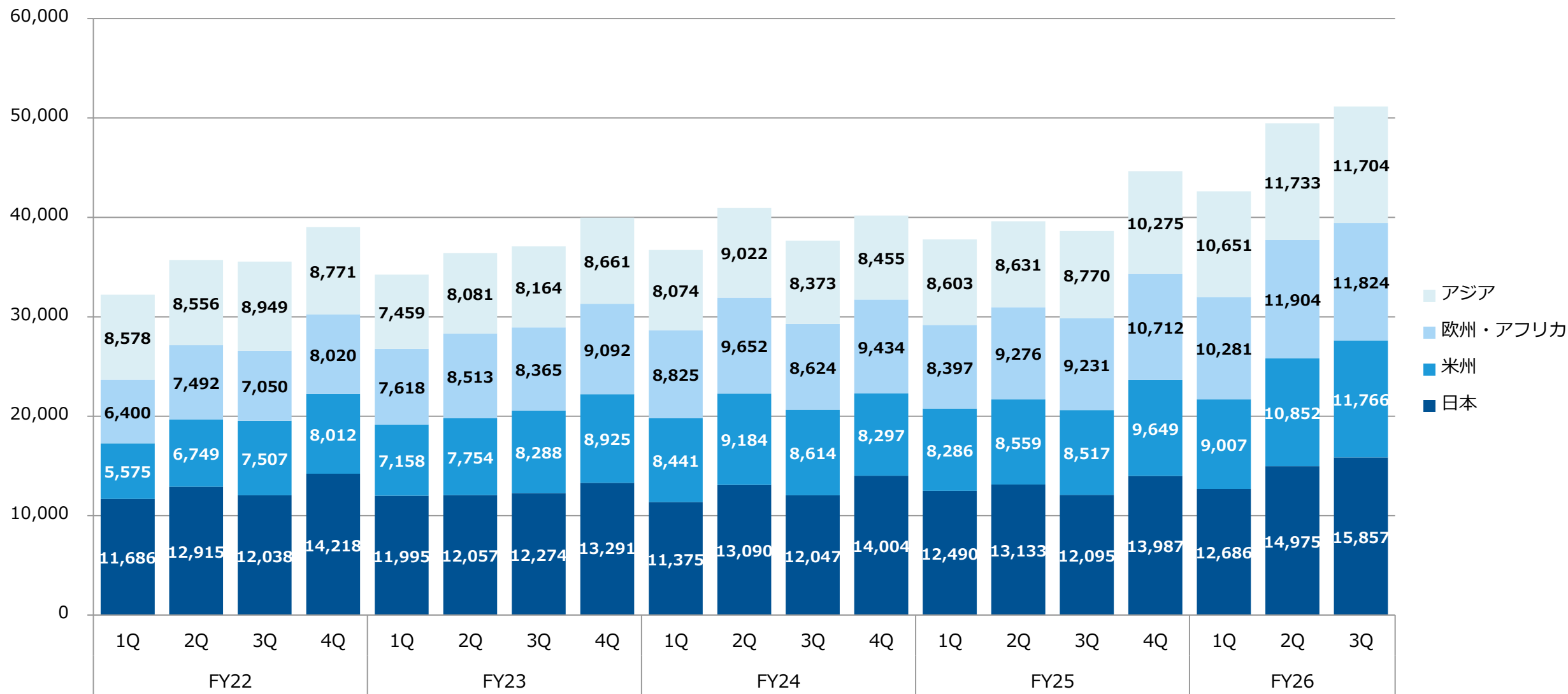
外部顧客への売上高（セグメント別）

(百万円)

	FY25				FY26				増減額	前年同期比	現地通貨ベース
	1Q	2Q	3Q	3Q累計	1Q	2Q	3Q	3Q累計			前年同期比
日本	12,490	13,133	12,095	37,719	12,686	14,975	15,857	43,520	5,800	+15.4%	-
米州	8,286	8,559	8,517	25,363	9,007	10,852	11,766	31,626	6,262	+24.7%	+15.8%
欧州・アフリカ	8,397	9,276	9,231	26,905	10,281	11,904	11,824	34,009	7,104	+26.4%	+13.0%
アジア	8,603	8,631	8,770	26,005	10,651	11,733	11,704	34,089	8,083	+31.1%	+21.6%
連結	37,777	39,601	38,615	115,994	42,627	49,466	51,152	143,245	27,250	+23.5%	-

外部顧客への売上高推移（セグメント別）

(百万円)



セグメント利益

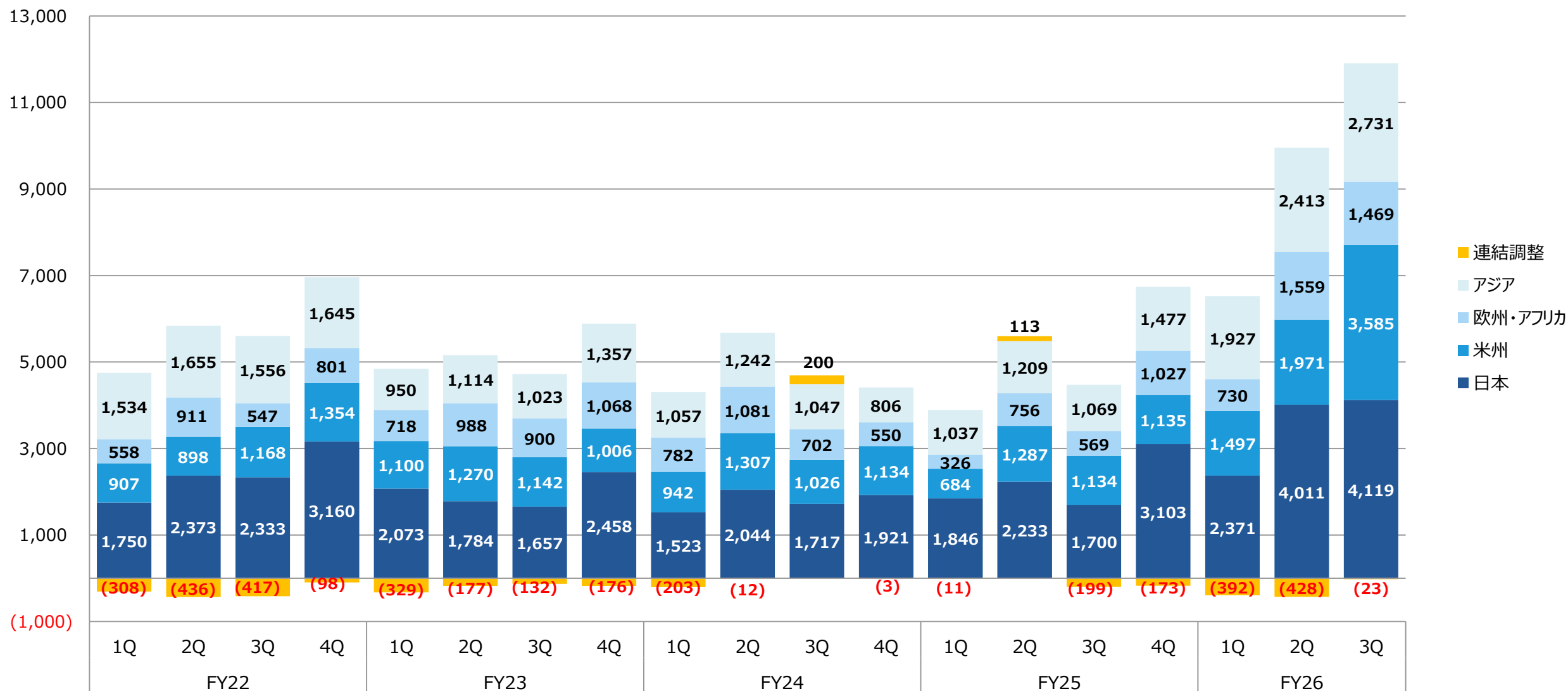
(百万円)

	FY25				FY26				増減額	前年同期比
	1Q	2Q	3Q	3Q累計	1Q	2Q	3Q	3Q累計		
日本	1,846	2,233	1,700	5,780	2,371	4,011	4,119	10,502	4,721	+81.7%
利益率	10.2%	11.7%	9.3%	10.4%	12.3%	18.0%	17.7%	16.2%	5.8pt	
米州	684	1,287	1,134	3,106	1,497	1,971	3,585	7,055	3,948	+127.1%
利益率	8.1%	14.8%	13.1%	12.0%	16.3%	17.0%	29.8%	21.5%	9.5pt	
欧州・アフリカ	326	756	569	1,653	730	1,559	1,469	3,758	2,105	+127.3%
利益率	3.8%	8.0%	6.1%	6.0%	7.0%	13.0%	12.2%	10.9%	4.8pt	
アジア	1,037	1,209	1,069	3,316	1,927	2,413	2,731	7,072	3,756	+113.3%
利益率	10.9%	12.5%	11.0%	11.5%	16.2%	18.2%	20.1%	18.3%	6.8pt	
計	3,895	5,486	4,474	13,857	6,526	9,956	11,905	28,388	14,531	+104.9%
調整	-11	113	-199	-97	-392	-428	-23	-845	-748	-
連結	3,884	5,600	4,275	13,759	6,134	9,527	11,882	27,543	13,783	+100.2%

※利益率は「外部顧客への売上高」と「セグメント間の内部売上高又は振替高」の合計に対する営業利益率

セグメント利益推移

(百万円)



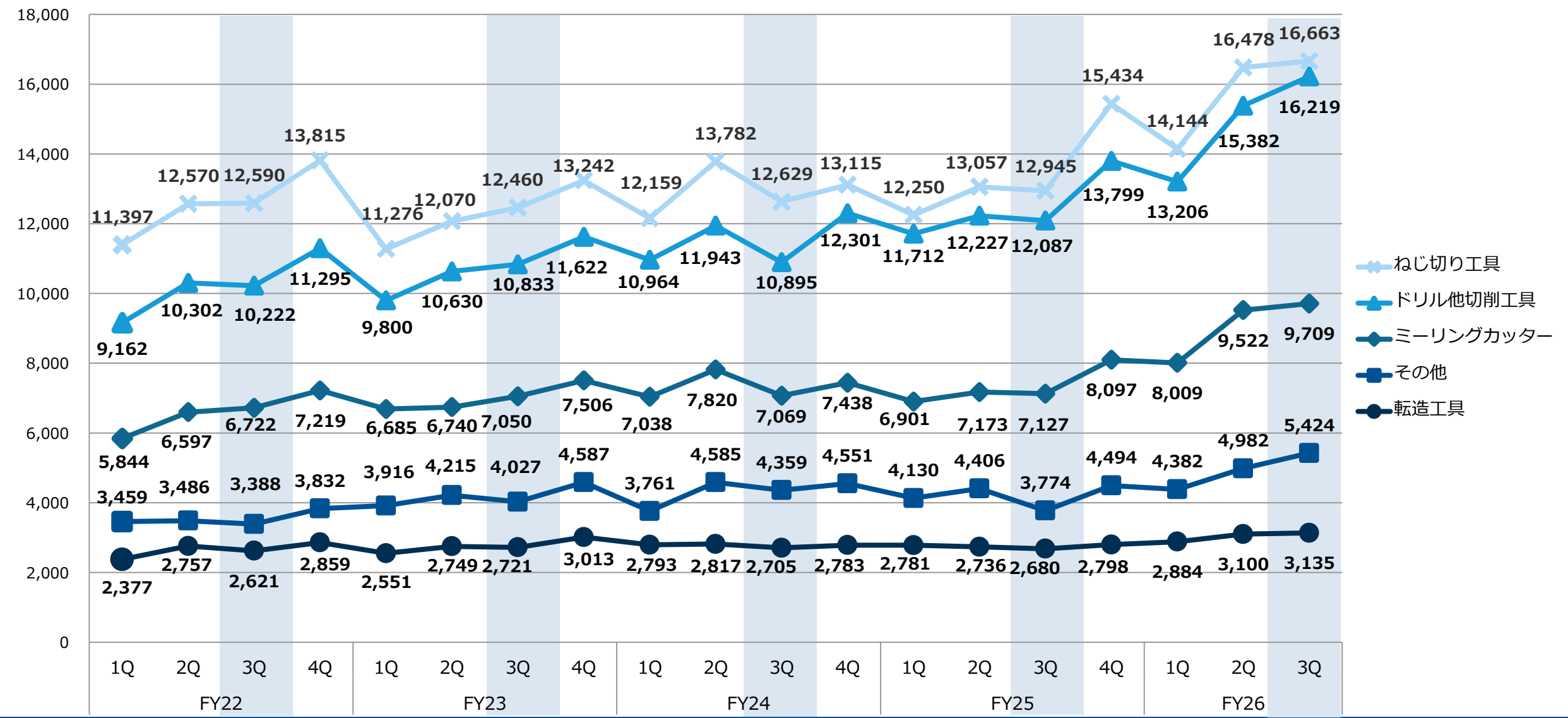
製品別売上高

(百万円)

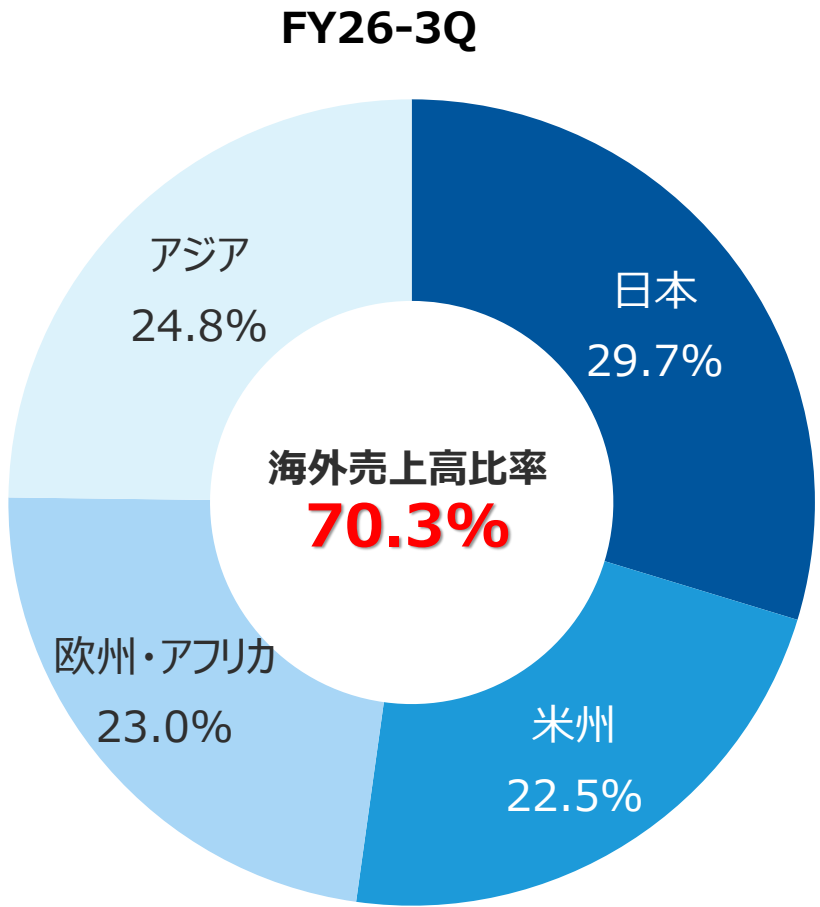
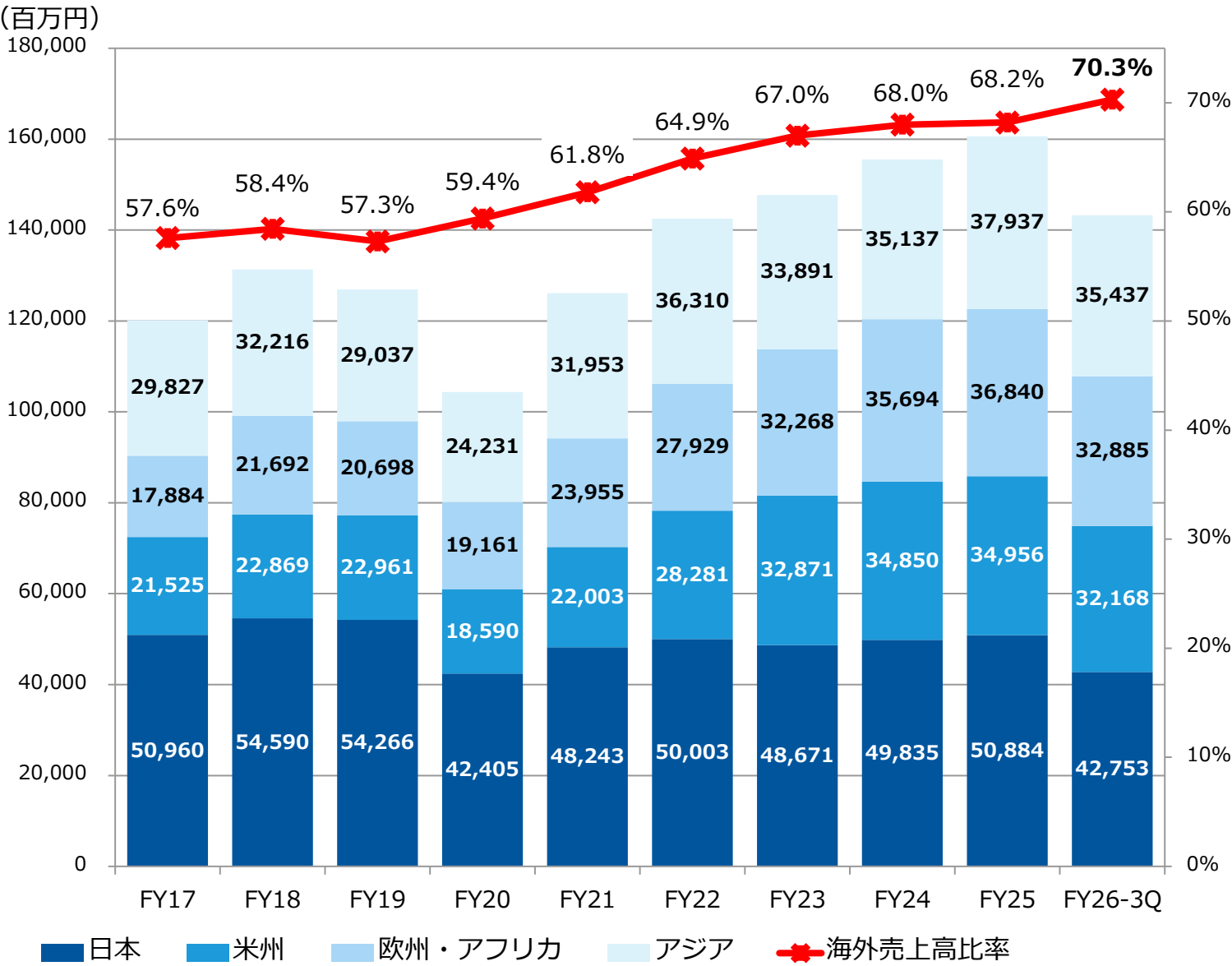
		FY25						FY26						前年同期比	
		1Q	2Q	3Q	4Q	3Q累計		1Q	2Q	3Q	3Q累計		増減		
精密工具	ねじ切り工具	12,250	13,057	12,945	15,434	38,254	33.0%	14,144	16,478	16,663	47,286	33.0%	9,031	+23.6%	
	ミーリングカッター	6,901	7,173	7,127	8,097	21,202	18.3%	8,009	9,522	9,709	27,241	19.0%	6,038	+28.5%	
	ドリル他切削工具	11,712	12,227	12,087	13,799	36,027	31.1%	13,206	15,382	16,219	44,808	31.3%	8,780	+24.4%	
	転造工具	2,781	2,736	2,680	2,798	8,198	7.1%	2,884	3,100	3,135	9,120	6.4%	922	+11.2%	
	測定工具	517	538	549	538	1,605	1.4%	495	606	625	1,727	1.2%	121	+7.6%	
	計	34,164	35,733	35,390	40,668	105,288	90.8%	38,739	45,090	46,353	130,184	90.9%	24,895	+23.6%	
その他	機械	1,344	1,600	822	1,516	3,767	3.2%	1,008	1,271	756	3,036	2.1%	-731	-19.4%	
	その他	2,269	2,267	2,401	2,439	6,938	6.0%	2,878	3,104	4,042	10,024	7.0%	3,086	+44.5%	
	計	3,613	3,868	3,224	3,955	10,705	9.2%	3,887	4,375	4,798	13,061	9.1%	2,355	+22.0%	
合計		37,777	39,601	38,615	44,624	115,994	100%	42,627	49,466	51,152	143,245	100%	27,250	+23.5%	

製品別売上高推移

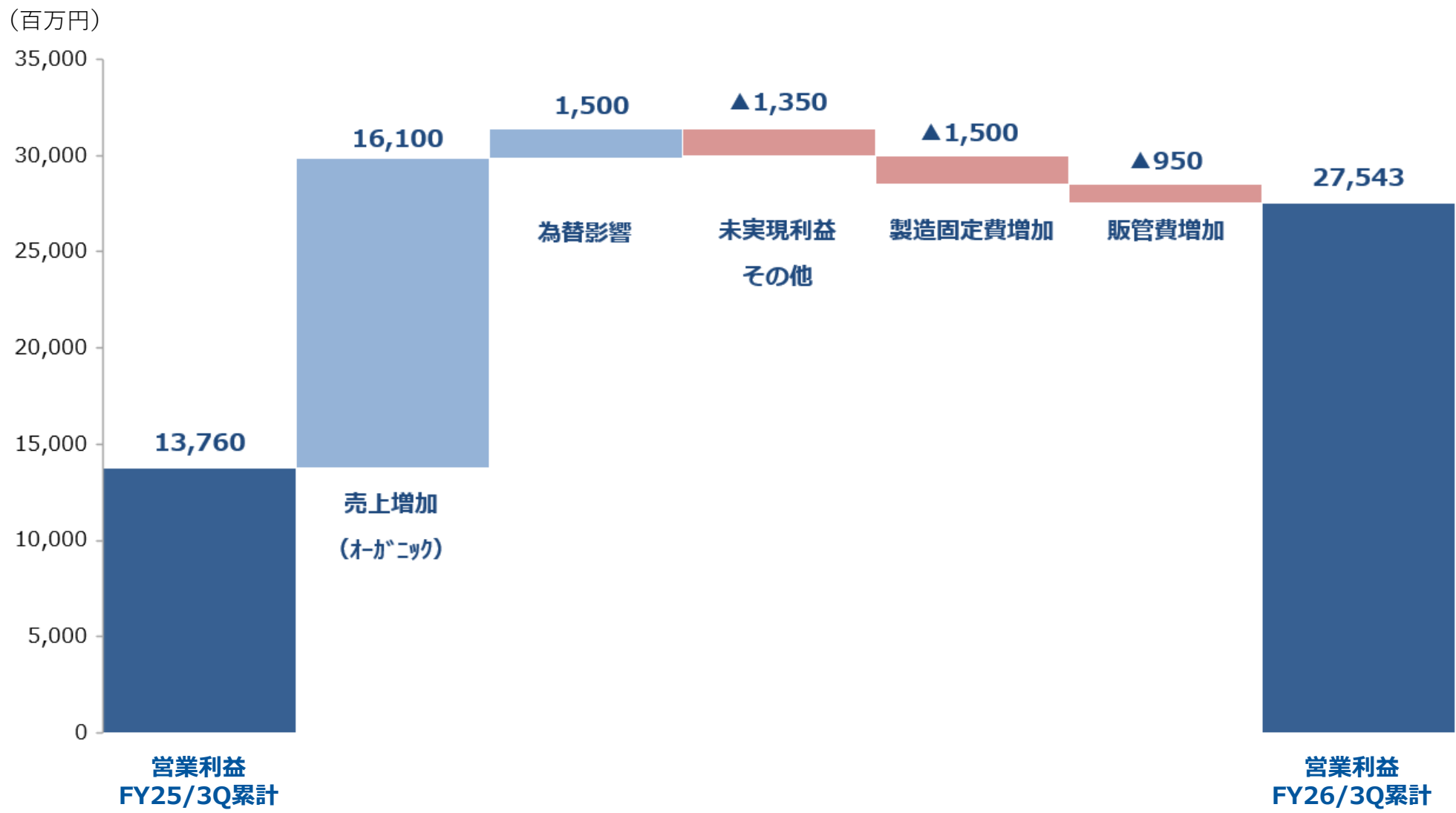
(百万円)



海外売上高の推移



営業利益の増減分析

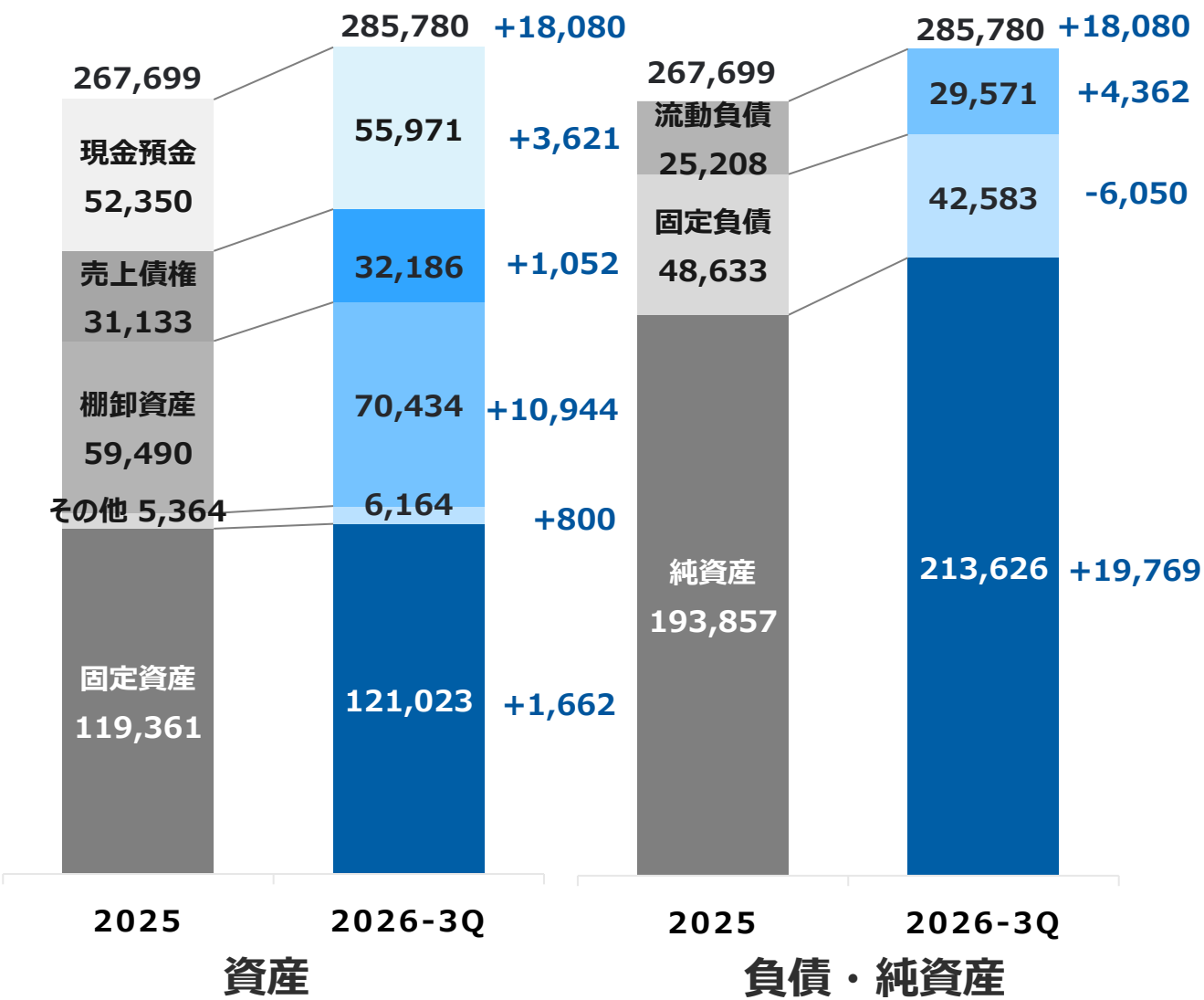


BS主要指標とBS概要

BS主要指標

Net Cash	売上債権回転期間
14,014百万円 (FY25末 7,392百万円)	2.1ヶ月 (FY25末 2.4ヶ月)
現金預金	棚卸資産回転期間
55,971百万円 (FY25末 52,350百万円)	4.5ヶ月 (FY25末 4.5ヶ月)
有利子負債	自己資本比率
41,956百万円 (FY25末 44,957百万円)	70.2% (FY25末 67.5%)

連結貸借対照表の概要 (百万円)



設備投資・減価償却費

2026年度 設備投資予想

約120億円

設備投資実績

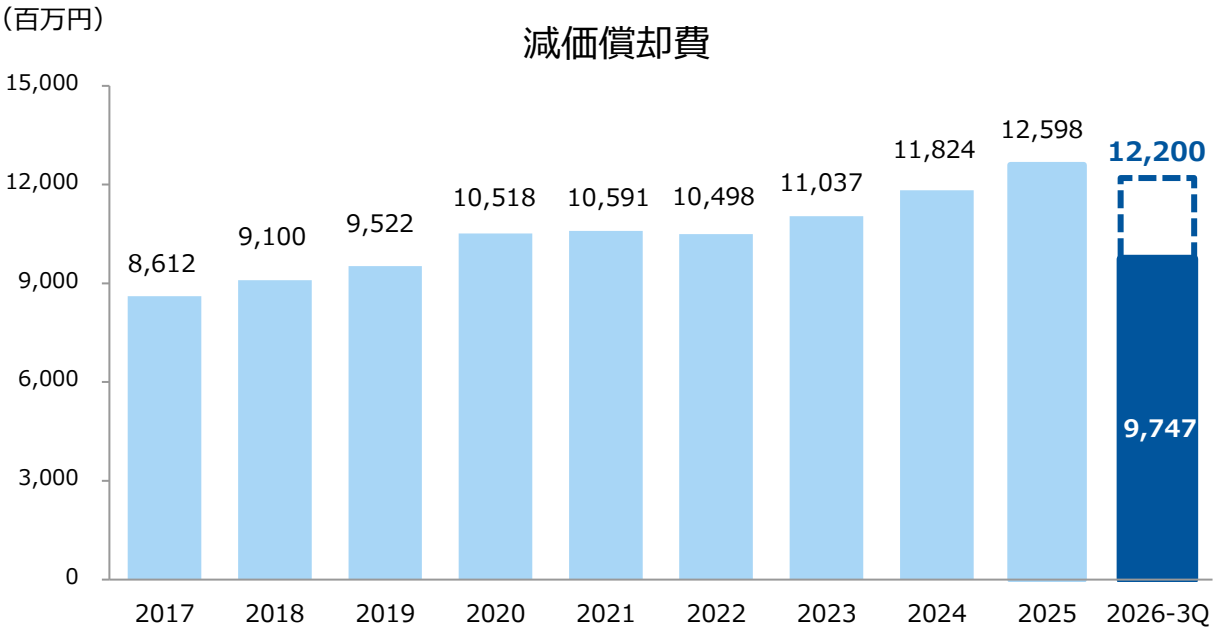
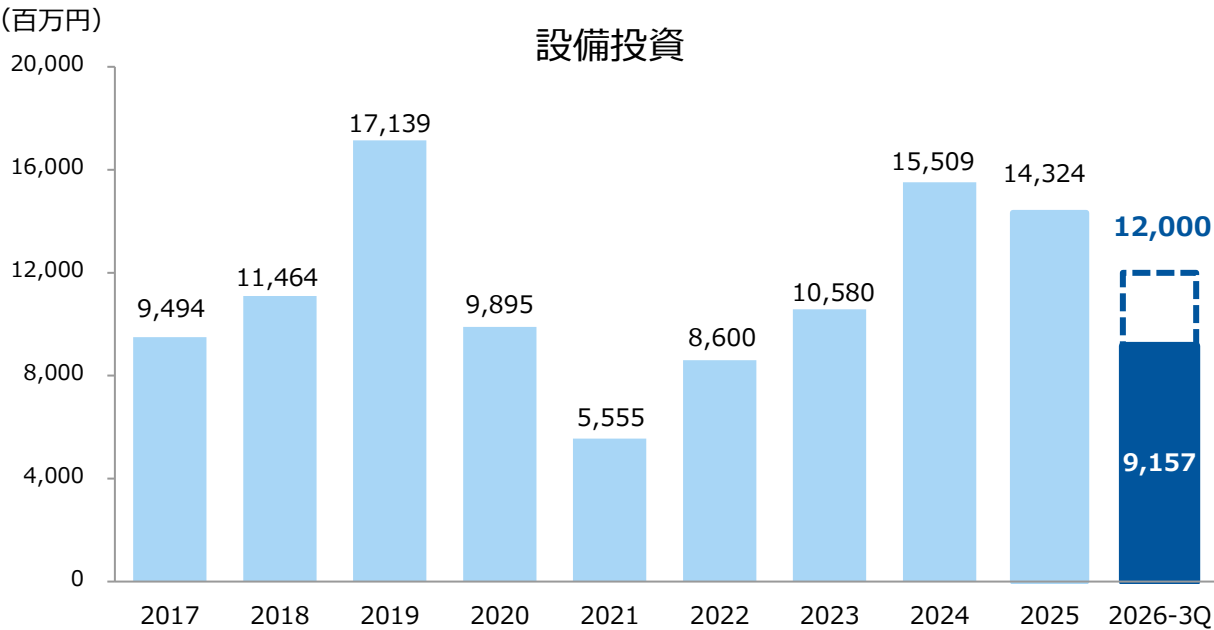
9,157百万円

Breakdown

前期末検収の約7億円を含む
超硬エンドミルの新大池工場Ⅱ期工事、機械設備等

減価償却費実績

9,747百万円



2026年11月期 連結業績予想の修正

(百万円)

連結	FY26 ※ 修正前予想	FY26 修正後予想	増加額	増加率	単体	FY26 通期予想
売上高	185,000	193,000	8,000	+4.3%	売上高	60,000
営業利益	30,000	36,000	6,000	+20.0%	営業利益	6,500
営業利益率	16.2%	18.7%	+2.4pt	-	営業利益率	10.8%
経常利益	32,000	38,000	6,000	+18.8%	経常利益	15,000
親会社株主に帰属 する当期純利益	21,000	24,000	3,000	+14.3%	当期純利益	12,900
EPS (円)	255.60	288.48	32.88	+12.9%	EPS (円)	156.74

予想前提レート： 1US\$=155円 1Euro=180円

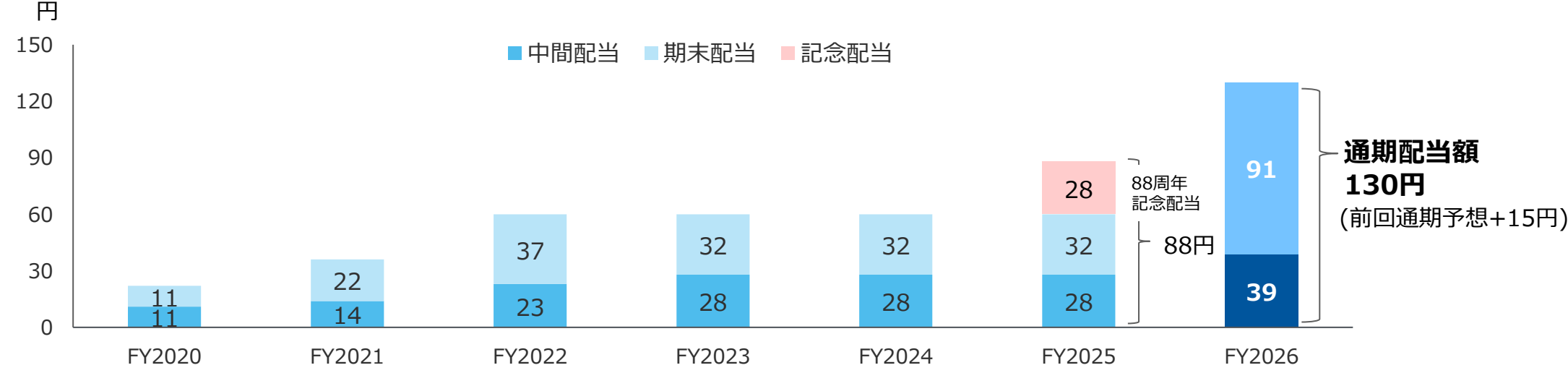
※単体業績は期初予想から変更ありません

※修正前予想は2026年7月10日公表の業績予想に基づいています。

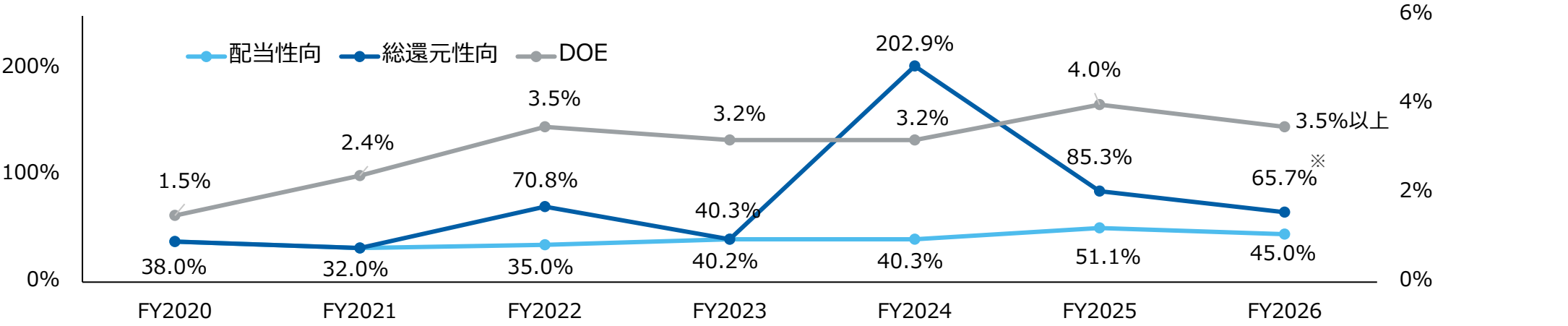
株主還元方針

配当性向45% または 株主資本配当率（DOE） 3.5%のいずれか高い方

配当



配当性向
総還元性向



※FY2026の総還元性向は、2026年10月9日公表の自己株式取得（上限50億円）を反映した見込みです。



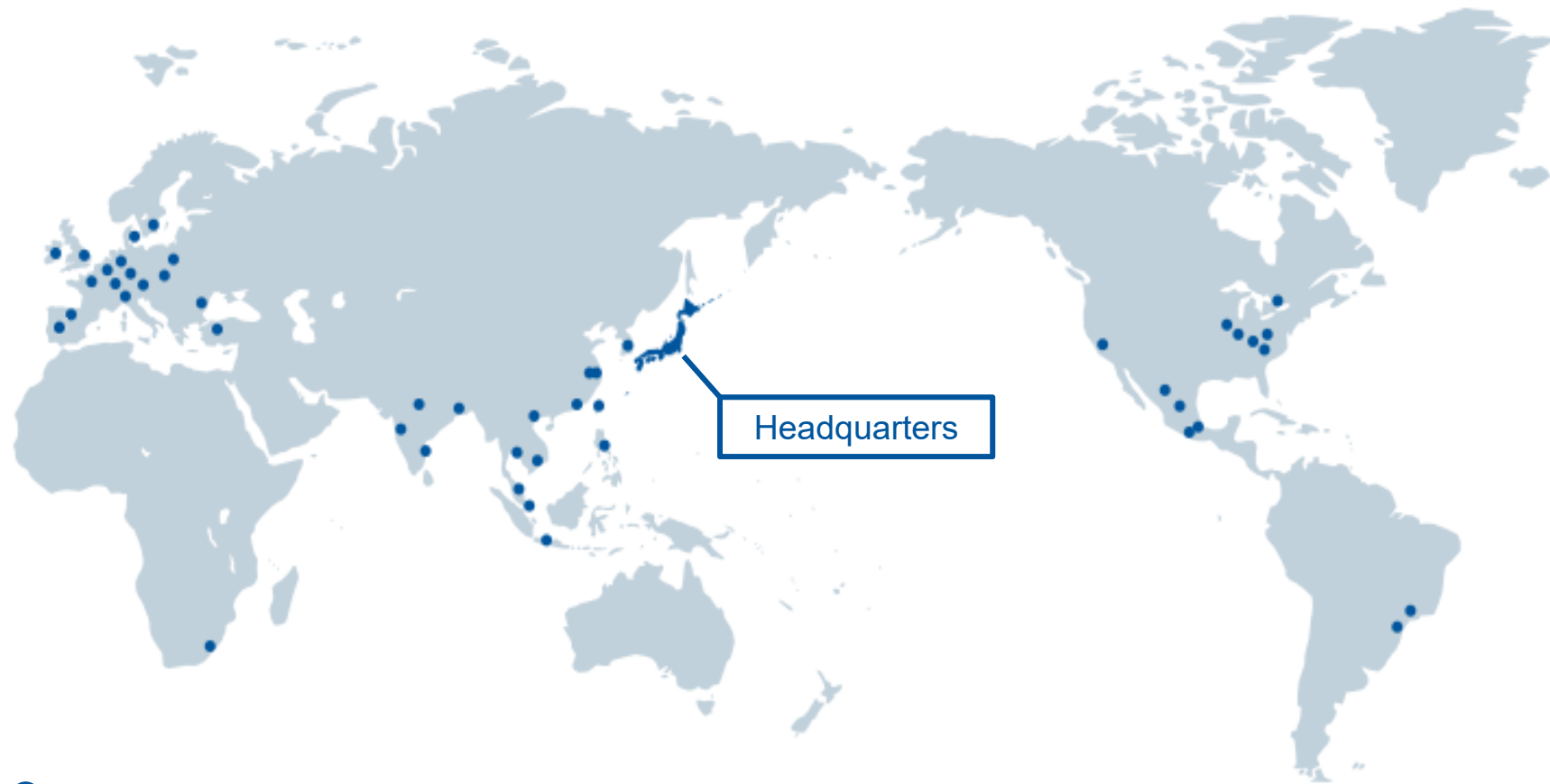
為替レート

	期間平均レート			期末日レート		
	1US\$	1Euro	1RMB	1US\$	1Euro	1RMB
FY22 3Q	126.15円	135.31円	19.20円	138.63円	139.03円	20.04円
FY22 通期	130.61円	137.60円	19.42円	138.87円	143.58円	19.43円
FY23 3Q	137.68円	149.36円	19.56円	140.20円	159.84円	20.03円
FY23 通期	140.44円	151.87円	19.79円	147.07円	161.51円	20.60円
FY24 3Q	151.49円	164.35円	20.99円	144.80円	160.44円	20.40円
FY24 通期	150.88円	163.71円	20.98円	150.74円	159.20円	20.80円
FY25 3Q	148.82円	164.51円	20.57円	146.92円	171.47円	20.63円
FY25 通期	149.91円	167.91円	20.81円	156.63円	181.60円	22.13円
FY26 3Q	158.76円	184.88円	23.19円	160.02円	185.50円	23.78円

業績・経営指標（連結ベース）

		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026_3Q
売上高	(百万円)	111,917	105,561	120,198	131,368	126,964	104,388	126,156	142,525	147,703	155,517	160,619	143,245
売上高成長率(対前期)	(%)	10.8%	-5.7%	13.9%	9.3%	-3.4%	-18.0%	20.9%	13.0%	3.6%	5.3%	3.3%	23.5%
売上原価	(百万円)	61,865	59,179	69,711	74,833	73,281	65,715	76,969	83,459	87,254	92,042	94,800	78,871
売上総利益	(百万円)	50,051	46,382	50,486	56,535	53,682	38,673	49,186	59,065	60,448	63,475	65,819	64,373
販売費及び一般管理費	(百万円)	28,454	28,135	31,349	34,015	34,128	30,276	33,081	37,166	40,648	44,606	45,488	36,830
営業利益	(百万円)	21,597	18,246	19,137	22,520	19,554	8,396	16,105	21,898	19,800	18,868	20,330	27,543
経常利益	(百万円)	21,510	17,813	19,144	22,567	19,710	8,950	16,141	23,648	21,350	19,825	22,354	29,495
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	12,518	10,134	13,993	14,710	13,686	5,639	10,989	16,534	14,307	13,439	14,334	21,364
売上総利益/売上高	(%)	44.7%	43.9%	42.0%	43.0%	42.3%	37.0%	39.0%	41.4%	40.9%	40.8%	41.0%	44.9%
販売費及び一般管理費/売上高	(%)	25.4%	26.7%	26.1%	25.9%	26.9%	29.0%	26.2%	26.1%	27.5%	28.7%	28.3%	25.7%
営業利益/売上高	(%)	19.3%	17.3%	15.9%	17.1%	15.4%	8.0%	12.8%	15.4%	13.4%	12.1%	12.7%	19.2%
経常利益/売上高	(%)	19.2%	16.9%	15.9%	17.2%	15.5%	8.6%	12.8%	16.6%	14.5%	12.7%	13.9%	20.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益/売上高	(%)	11.2%	9.6%	11.6%	11.2%	10.8%	5.4%	8.7%	11.6%	9.7%	8.6%	8.9%	14.9%
平均為替レート 1USD	(円)	121.03	109.78	112.33	110.53	109.36	106.94	109.41	130.61	140.44	150.88	149.91	158.76
平均為替レート 1Euro	(円)	134.92	121.39	126.20	130.68	122.53	121.60	130.04	137.60	151.87	163.71	167.91	184.88
総資産	(百万円)	155,129	156,081	166,712	178,020	190,414	200,112	209,757	228,852	250,124	257,256	267,699	285,780
自己資本	(百万円)	102,566	92,216	115,810	125,332	129,078	129,338	143,811	164,659	181,561	166,633	180,811	200,694
1株当たり当期純利益	(円)	131.78	110.59	153.70	150.47	140.06	57.94	112.63	171.54	149.29	148.94	172.11	259.72
1株当たり配当金（中間）	(円)	26.00	22.00	21.00	22.00	23.00	11.00	14.00	23.00	28.00	28.00	28.00	39.00
（期末）	(円)	20.00	28.00	25.00	25.00	24.00	11.00	22.00	37.00	32.00	32.00	60.00	(予定)91.00
1株当たり純資産	(円)	1,079.12	1,024.34	1,191.65	1,279.29	1,328.08	1,327.22	1,472.45	1,721.14	1,892.35	1,962.21	2,200.98	2,413.63
期中平均株式数	(千株)	94,991	91,640	91,044	97,761	97,716	97,335	97,573	96,388	95,838	90,233	83,289	82,261
ROA（営業利益ベース）	(%)	14.5%	11.7%	11.9%	13.1%	10.6%	4.3%	7.9%	10.0%	8.3%	7.4%	7.7%	13.3%
ROE	(%)	12.9%	10.4%	13.5%	12.2%	10.8%	4.4%	8.0%	10.7%	8.3%	7.7%	8.3%	14.9%
自己資本比率	(%)	66.1%	59.1%	69.5%	70.4%	67.8%	64.6%	68.6%	72.0%	72.6%	64.8%	67.5%	70.2%
総資産回転率	(回)	0.75	0.68	0.74	0.76	0.69	0.53	0.62	0.65	0.62	0.61	0.61	0.69
営業CF	(百万円)	19,588	16,333	20,820	20,310	19,261	17,038	26,982	20,175	23,331	28,557	26,389	-
投資CF	(百万円)	-16,976	-16,843	-7,566	-13,351	-20,314	-17,133	-6,961	-12,170	-8,543	-21,741	-13,976	-
財務CF	(百万円)	-6,216	-778	-11,137	-4,723	3,465	9,658	-14,264	-14,740	-3,831	-7,985	-15,035	-
キャッシュフローマージン	(%)	17.5%	15.5%	17.3%	15.3%	15.1%	16.3%	21.4%	14.2%	15.8%	18.4%	16.4%	-

OSGグループネットワーク



Headquarters

GLOBAL NETWORK

35カ国

239拠点

● Sales Office / Plant



shaping your dreams



中期経営計画

Beyond the Limit 2027
Stage2

2025年11月期～2027年11月期

変遷（次なる成長へ事業基盤が整う）

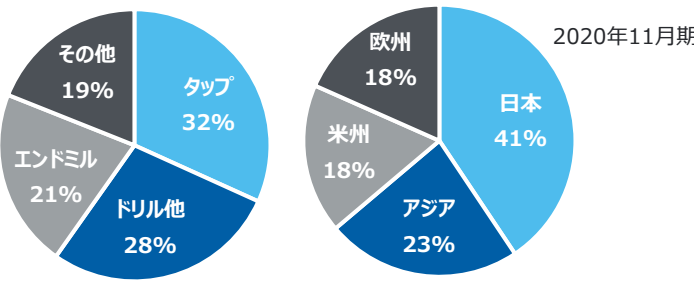
地球会社

グローバルネットワークの構築



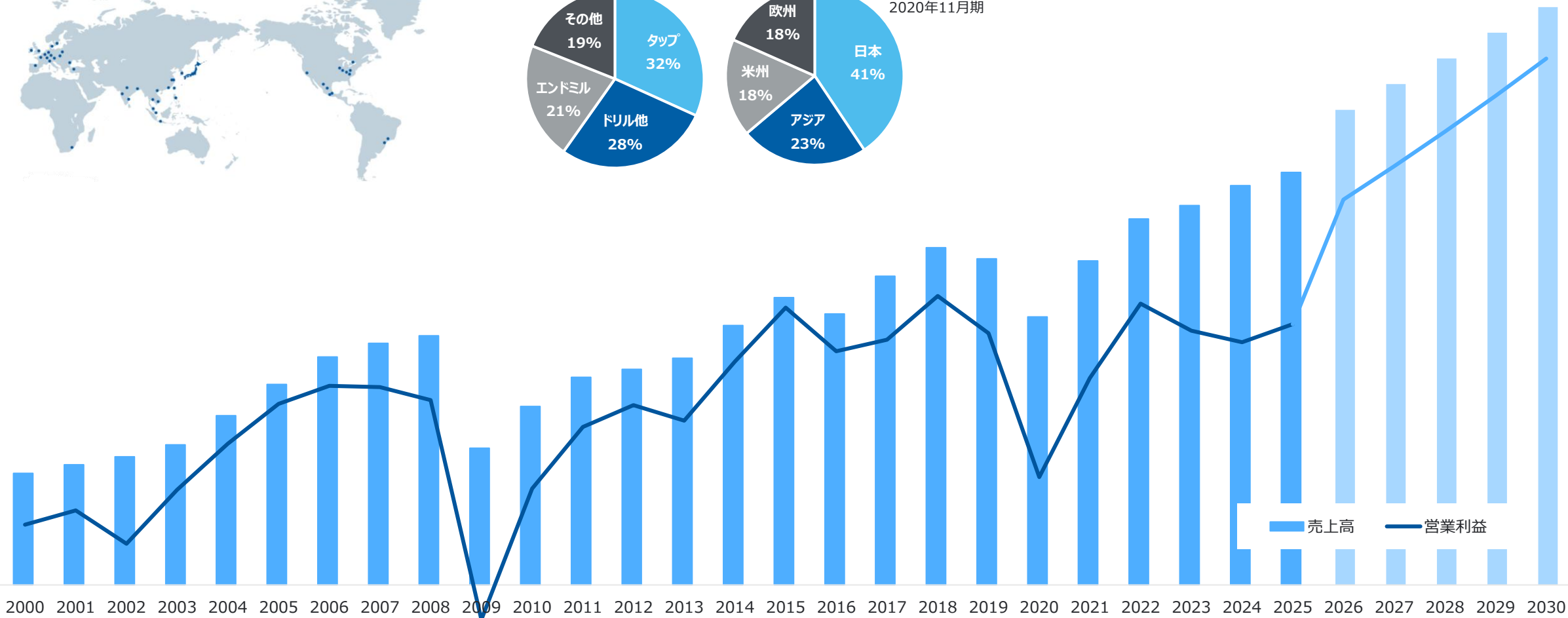
世界No.1の穴加工切削工具メーカー

M&A戦略により、地域・製品両面で安定的かつ均衡の取れた事業ポートフォリオを実現



エッセンシャルプレーヤー

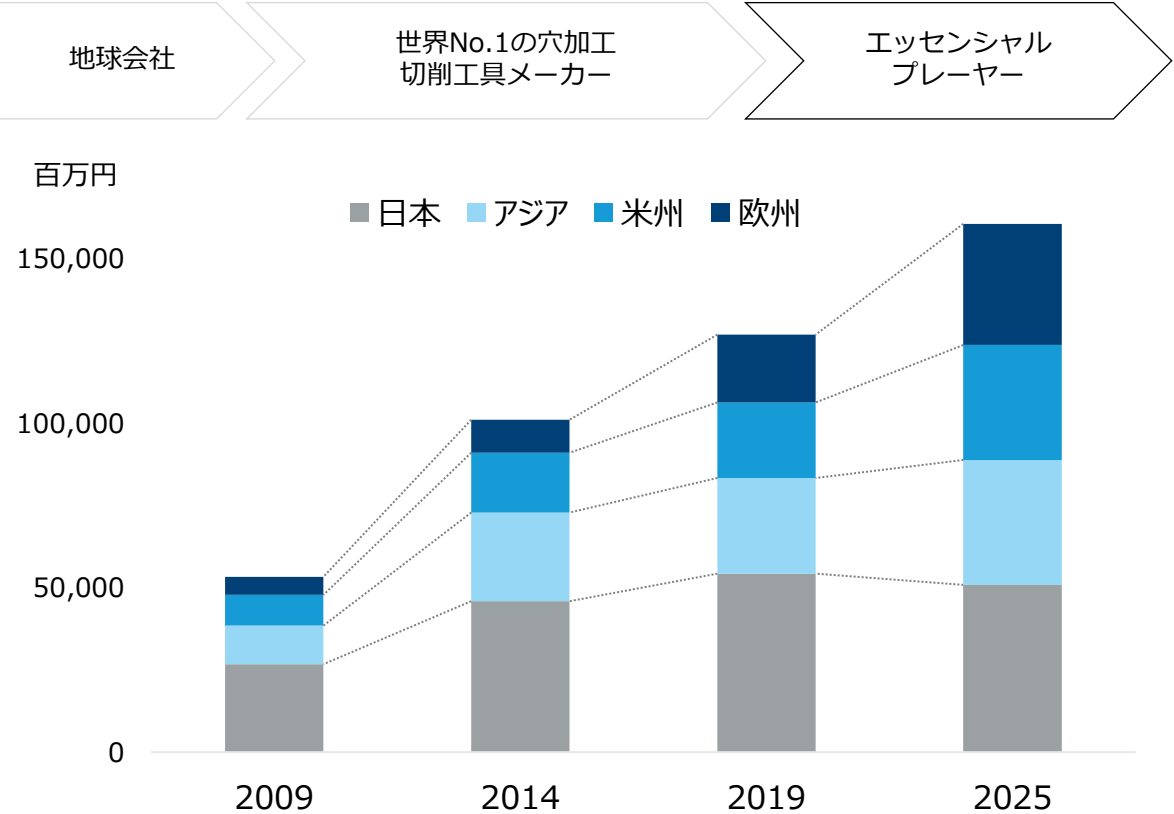
お客様の挑戦を支える存在として、共に利益と持続可能な未来の実現を目指す



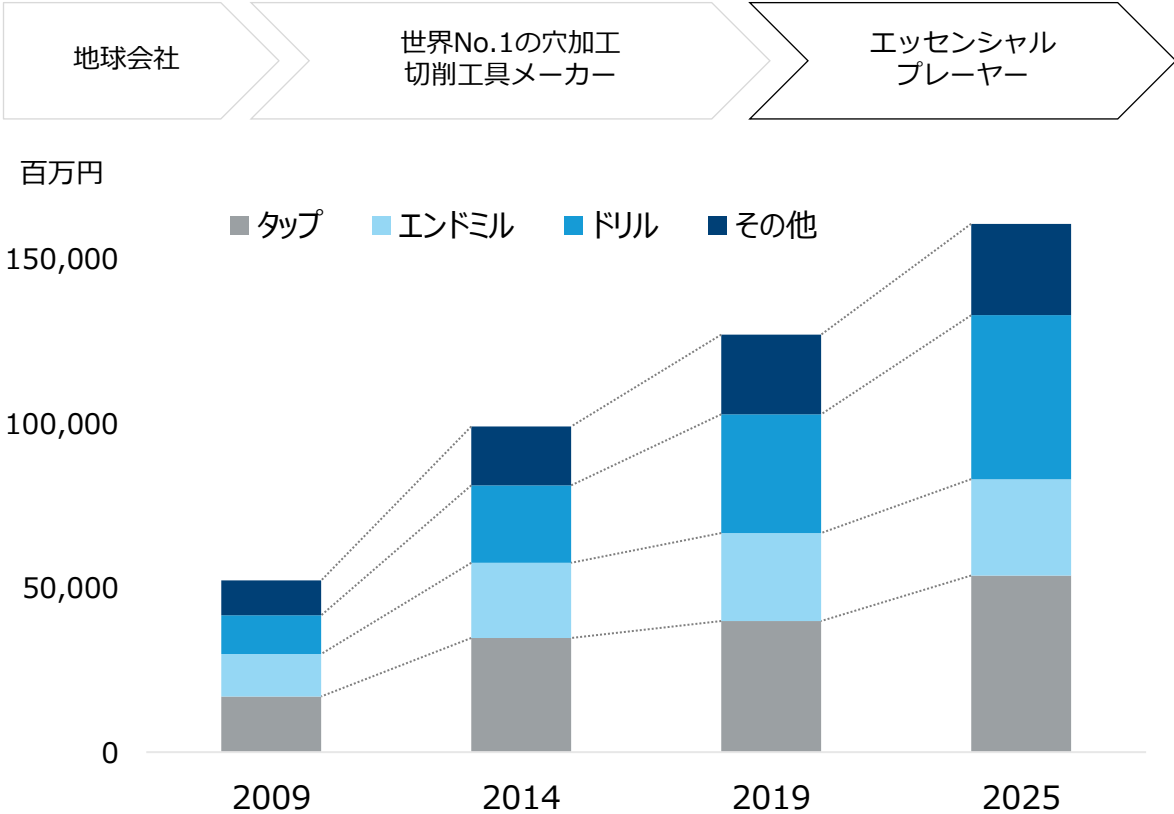
地域・製品の両面でバランスの良い事業基盤を確立

戦略的な地域展開と注力産業の多角化により、日本国外でのプレゼンスを高めるとともに、
トップに偏らないバランスの取れた製品構成を実現、切削業界において最高水準の成長を遂げました。
将来の持続的成長に向けた強固な事業基盤も着実に構築しています。

地域別外部顧客向け売上（実績）の推移



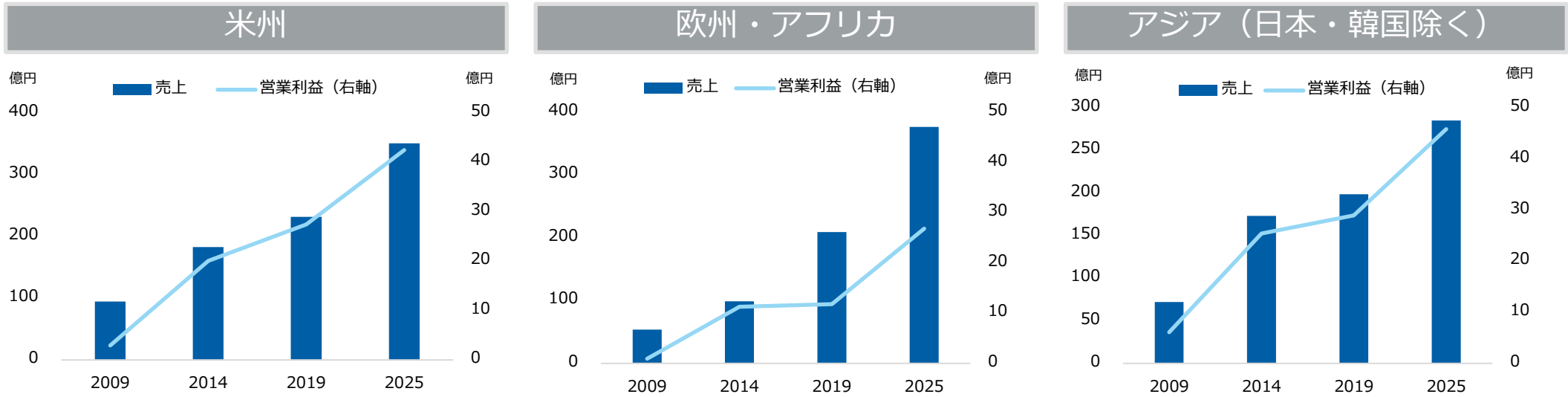
製品別売上（実績）の推移



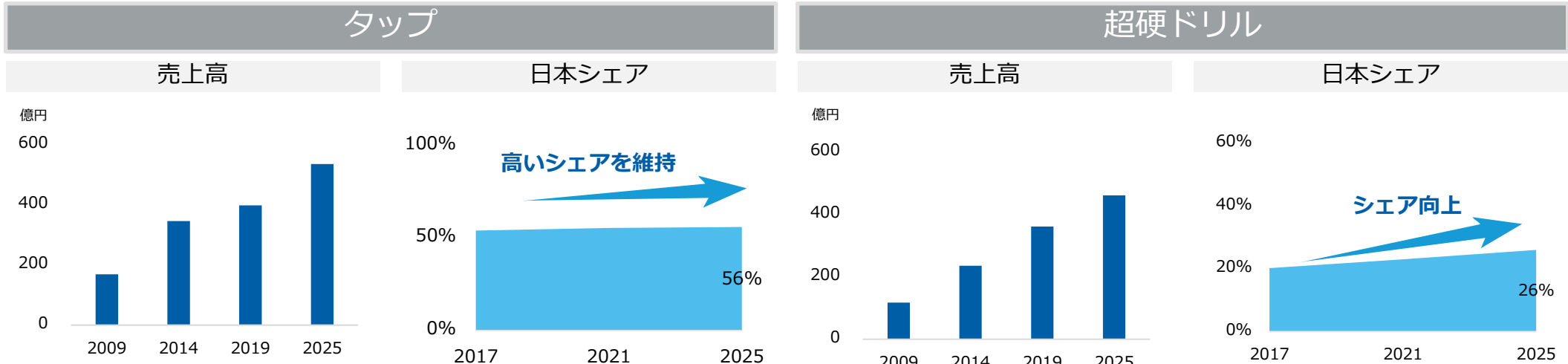
地域別・製品別実績推移

日本国外での規模拡大は著しく、特に穴加工工具であるタップと超硬ドリルは大きく成長しました。

地域別
売上高
営業利益率



製品別
売上高
日本シェア



出所:日本シェア「日本工作機械工業会の統計調査データ」

Beyond the Limit

変化の激しい市場環境の中にあっても、確かな価値を提供し続けると同時に、持続的に利益を創出できる強靱な企業体質の実現に向け、事業効率の改善に取り組みます。

Beyond the Limit
2022-2024 (Stage1)

Beyond the Limit 2025-2027
(Stage2)

Beyond the Limit
2028-2030 (Stage3)

2027/11 計画

ROE
10%超

営業利益率
16%超

収益性向上の取り組み

- ① Aブランドを中心とした高付加価値製品の売上拡大
- ② 微細・精密加工向け工具の売上拡大
- ③ 生産性及び業務効率化による原価改善
- ④ 製品シリーズ・価格見直し
- ⑤ 販管費比率の低減
- ⑥ BSマネジメント施策の実施

中計Stage2概要（1/2） - 事業成長戦略

	製品	戦略方針	主な産業
主力事業 成長を牽引	タップ	品質向上や競争力のある新製品の投入を通じて、開発・技術・生産・営業が一体となってシェア拡大を目指します。また、高付加価値のAブランドシリーズの拡販を推進し、 タップの世界シェア40% を目指します。	電子部品 エネルギー モビリティ 一般部品
	転造工具	創業製品のタップに次ぐ歴史の長い製品。 製造工程やサプライチェーンの見直しにより価格競争力を強化し、 グローバル展開 を一段と加速させます。売上倍増とともに利益率の改善もを目指します。	航空機 エネルギー モビリティ 一般部品
注力事業 今後の成長に繋がる事業領域の拡大	微細・精密工具 超硬 DIA/CBN	部門横断型営業組織であるGIGSセールスグループの活動強化とともに、新製品の投入により 微細・精密加工用工具 の売上拡大を図ります。 さらに、 ダイヤモンド のグループ会社を中心にレンズ業界など既存産業以外の新規分野の開拓も進めます。	電子部品 航空機 エネルギー モビリティ 医療 金型 一般部品
	コーティング	高付加価値のコーティングビジネスは、中長期的にも拡大が見込まれます。 自社製品の競争力向上に資するコーティング開発を進めるとともに、工具以外の多様な製品を対象とした ジョブコーティング サービスの拡大を一段と加速します。	電子部品 医療 金型 工具 一般部品

中計Stage2概要（2/2） - 経営基盤強化

事業効率と資本効率を改善し企業価値を高めます。

領域	戦略方針	取り組み
オペレーション	労働力不足への対応を見据え、 デジタル技術 を活用して、生産・営業プロセスの簡素化と効率化を進め、生産性および収益性の向上を図ります。あわせて、自社製機械設備の導入による 生産体制の複合化・省人化 を推進し、柔軟で強靱な事業基盤の構築を進めます。	- 事業効率の向上 - DX技術革新への対応 - 情報セキュリティ強化
組織・人的資本	適材適所の人員配置や自主性・組織力を高める人財育成を進め、社員一人ひとりの価値を最大化する人事施策を推進します。社員が働きがいを感じ、安心して挑戦できる職場環境を整備するとともに、絶えず変化する社会環境の中でも変化を厭わず挑戦を続けることで、社員と会社がともに成長し、 企業価値の向上 を実現します。	- 人財の能力向上 - 働きがいのある職場環境の整備 - エンゲージメント向上
サステナビリティ	2030年にCO ₂ 排出量を2024年度比20%削減、2050年にカーボンニュートラル達成を目指し、Scope1・2の排出削減、Scope3の算定、主力製品の CFPの算定による環境負荷の見える化 を推進します。運用改善による電力使用量削減と再生可能エネルギーの活用により、資源循環型社会の実現を目指します。	KPI (FY2027) 20% - CO₂排出量の削減 - カーボンフットプリントの算定
財務・資本政策	既存事業の成長戦略に加え、 M&A を含む積極的な成長投資を継続します。さらに、株主還元やIR活動を通じて株主資本コストの低減を図り、資本効率を高めることで、 ROE10%超 を目指します。	ROE 10%超 - 最適資本構成の構築 - 成長分野への戦略投資 - 株主還元の強化

事業機会と成長分野

既存産業向け売上拡大の取り組みを継続する一方、今後の成長が期待される医療・モビリティ・AI・エネルギー・宇宙などの開拓を進めることで、顧客産業の伸びを上回る成長を目指します。



※各産業分野の画像はすべてイメージ

Aブランド/The A Brand

Aブランドは高品質、高性能にも関わらず価格を抑えたOSGのフラッグシップ製品として2015年に誕生。A-TAPを皮切りに、A-DRILL、A-ENDMILLと広げ、現在もラインナップを拡充し続けています。

Aブランドを中心とした高付加価値製品の売上拡大

ポイント1

Aブランドの新製品を 短いサイクルで発表

A-TAP

世界が欲しがる製品づくりで
タップシェア40%を目指す

【A-TAPの強み】

- 機械設備を選ばず、最新鋭のマシニングセンターに取り付ければ最高のパフォーマンスを発揮
- 幅広い被削材を加工することが可能
- 切り屑の排出性能が高い設計と耐摩耗性に優れたコーティングで工具の長寿命化を実現した環境配慮型の製品

ポイント2

Aブランドは収益性が高い

ADO-MICRO (オイルホール付小径超硬ドリル)

新製品で小径分野でもシェアを拡大する

【ADO-MICROの強み】

- オイルホール付きの小径ドリルを製造販売している競合他社が少ない
- 高付加価値製品のため、高価格での販売が可能
- 欧州は加工能率を重視する傾向があるため、内部給油を利用した機械設備が浸透しており、当社製品は高い評価を得ている



微細・精密加工（ダイヤモンド工具、医療）

ダイヤモンド工具

関連するグループ会社	用途市場	注力エリア
・ オースジーダイヤモンドツール ・ Contour ・ Fiudi 等	半導体製造装置・検査装置用部品、 レンズ、精密金型、医療用具、 自動車・航空機部品 等	日本、台湾、 南アジア、中国

ダイヤモンド工具事業に関する説明

製品

事業説明

ダイヤモンド工具はアルミニウム、銅、超硬合金、ガラス、プラスチック、CFRP、セラミックス等の非鉄・複合材料の加工を対象としているものの、用途は精密加工に限りません。**近年は振動切削技術の進化により鉄系材料の加工も可能となり、市場は従来の想定以上に拡大しています。**

カタログ発行

ダイヤモンド工具に関する正しい知識を広めることで市場拡大を図るべく、教科書兼カタログを発行しました。価格、納期、取扱いに関する誤解が普及の障壁となつていますが、**教科書を通じて理解を深めることで、超硬工具からの代替提案による新規需要を創出し、国内製造業の高度化と当社の成長につなげてまいります。**

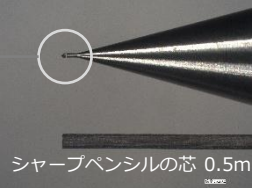
再研磨

刃先のダイヤモンドは再研磨を行うことで繰り返し使用できるほか、シャンクや母材に取り付けて使用するチップ式はダイヤモンド素材を張り替えることができます。

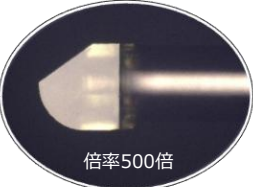
設備投資

次世代半導体や光学部品など、高精度化が進む市場の将来的な要求水準に対応するため、加工設備及び測定・評価体制を強化していきます。

極小径の単結晶ボールエンドミル



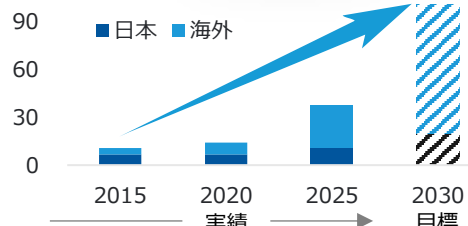
シャープペンシルの芯 0.5mm



倍率500倍

ダイヤモンド工具の売上見込み

2030年の売上は100億円を目指す。



年	日本 (億円)	海外 (億円)
2015	10	5
2020 実績	15	10
2025	30	20
2030 目標	100	50

医療

関連するグループ会社	用途市場	注力エリア
・ OSG ・ Winglit 等	歯科補綴物（ほてつぶつ）、 人工骨、人工関節 等	日本、欧州、北米、南アジア

医療関連事業に関する説明

切削対象物（例）

事業説明

歯科補綴物に使用されるあらゆる材料に適した独自の工具形状とコーティングで、歯科用CAD / CAM システムに対応した製品を世界中で展開しています。
【日本】歯科業界で使用される工具シェア6割

トレンド

歯の健康は全身の健康やQOLに関わるため、予防や審美歯科の需要が伸びています。
【日本】2026年診療報酬改定で保険治療範囲が拡大します。2014年8本だった適用範囲が、2026年6月からほぼすべての被せ歯の治療に適用されることになりました。

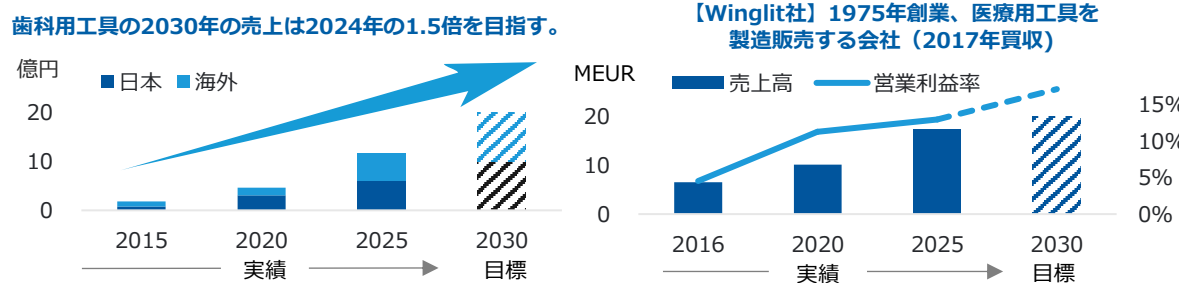
クラウン・ブリッジ



人工股関節



医療産業向け売上見込み



コーティング（ジョブコーティング事業）

関連するグループ会社

用途産業

注力エリア

OSGコーティングサービス（日本）
大宝鈦金科技股份有限公司（台湾）
Primcoat PVD Technology（インド）
Perform Coat（アメリカ、スイス）
PRIMUS COATING（ドイツ）等

金型
電子部品
医療
機械部品
工具

ドイツ
インド
トルコ
ベトナム

コーティング事業の展開

コーティング拠点は世界16カ国、29拠点（連結会社25拠点、非連結会社4拠点）



競争優位性の源泉（How to Win）

コーティング設備を自社製造していることから、コスト競争力が高い

コーティング専門メーカーに劣らないコーティングの種類と精度

金型等のコーティングの隙間で工具のコーティングが可能であり、生産効率が高い

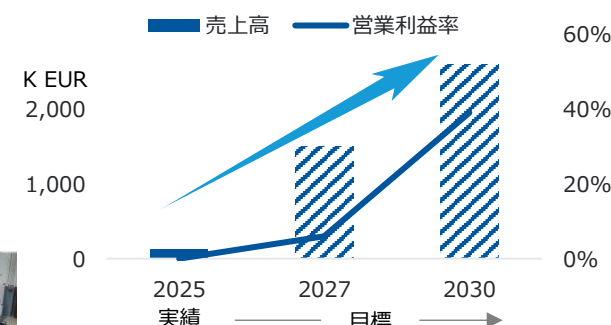
コーティングの拠点は世界に29拠点あり、お客様の世界進出をサポート可能

コーティング事業は金型ヘシフト

コーティング事業は初期投資はかかるものの、工具に比べて金型用のコーティングは高単価のため5年程度で投資回収を見込む

ドイツにおけるコーティング事業の展開

- 2025年3月にドイツのフライブルグでPrimus Freiburgが稼働開始
- ダイキャスト金型のコーティングも可能な大型炉（最大積載量2トン）を開発
⇒旺盛な需要を背景に、コーティング炉を1台増設
- 寡占市場の開拓

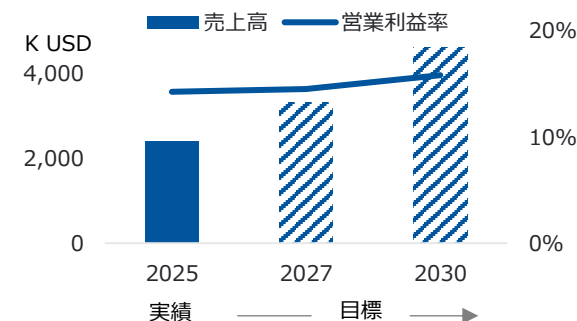


ドイツにおけるジョブコーティングの市場規模300億円超

インドでは4拠点目のコーティング新工場が稼働開始

グジャラート州アーメダバート

2026年5月稼働開始



35~100km圏内に大手自動車メーカー各社

インドにおけるジョブコーティングの市場規模100億円超

重電・半導体

AIの普及、クラウドサービスの拡大等、デジタル化の進展に伴いデータセンターの電力消費や異常気象による電力需要が年々増加しています。

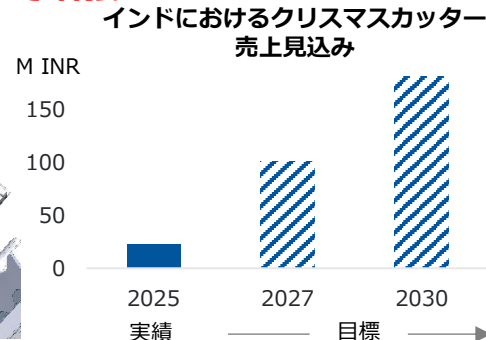
重電

トレンド

- 需要の増加により世界中で電力炉の建設が進んでいますが、今後は効率が良く環境性能の高い高機能な電力炉の建設も続きます。
- 発電用タービンに当社のクリスマスカッターが使用されますが、**生産が追い付かないほど受注が旺盛。**
⇒**27年末に生産能力を25年期初比75%増強**

インド市場

- インド政府系のパワープラント最大手メーカーからクリスマスカッターを受注。インドは国内のみならずこのパワープラント事業を中東、アフリカへ輸出する戦略を進めており、今後も大きく伸びる市場です。
⇒**再研磨設備をインドで増強**



半導体

トレンド

世界のデジタル化進展と共に今後更に半導体の需要が増加します。半導体製造装置は、極めて高い精度・耐腐食性・耐熱性・耐プラズマ性・クリーン性等が求められるため、超硬合金のほか、セラミックス、高純度ガラスや石英、高機能樹脂等さまざまな高機能材料が使用されています。中には、硬脆材といって硬度は高いが衝撃に弱いという両極端な性質を持つ材料もあります。

6C x OSG ブランド

課題

- 硬脆材は一般的な加工方法（切削加工と放電加工）では、加工時間が長く生産が高まらない。

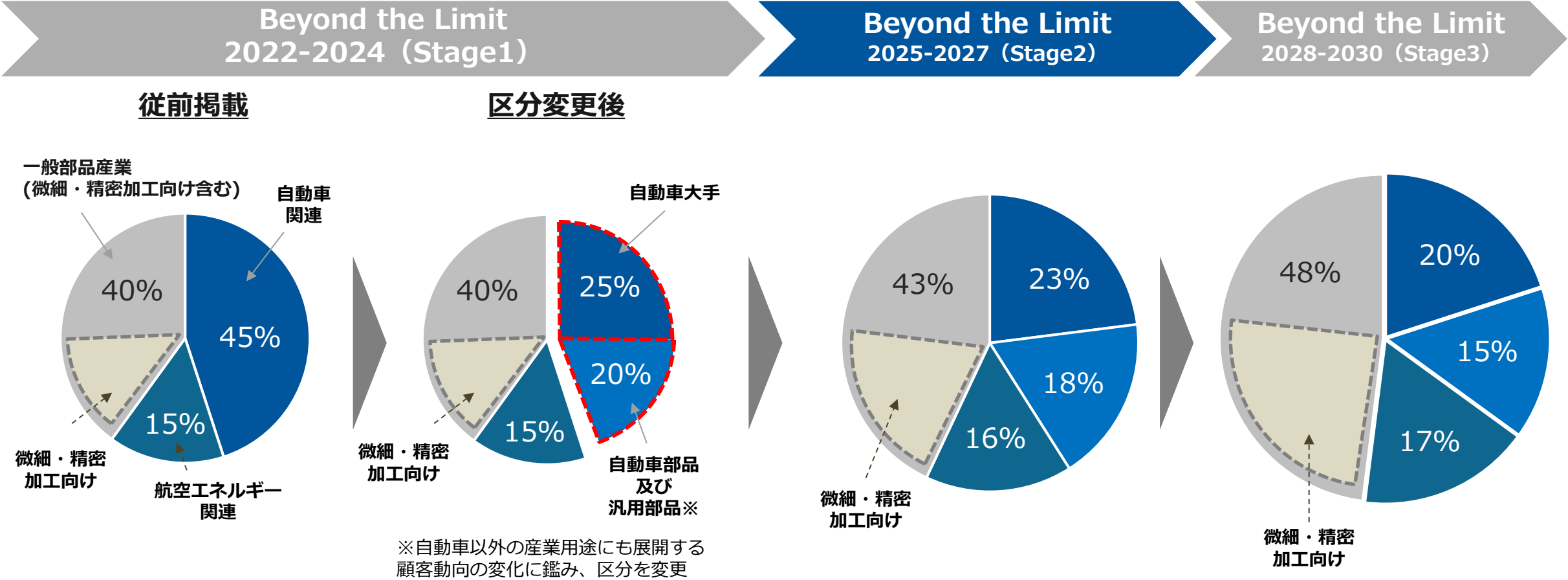
解決策

- 新たに6C x OSGブランドを立ち上げ、硬脆材を高効率・高精度で直彫り加工し、加工時間の短縮と加工コストの削減を実現しました。



顧客産業別ポートフォリオ（目標）

事業環境に左右されにくいバランスの取れた顧客産業別ポートフォリオへの変革を進めます。
Aブランドや微細・精密加工向け工具の売上比率を高めることで収益性を改善します。

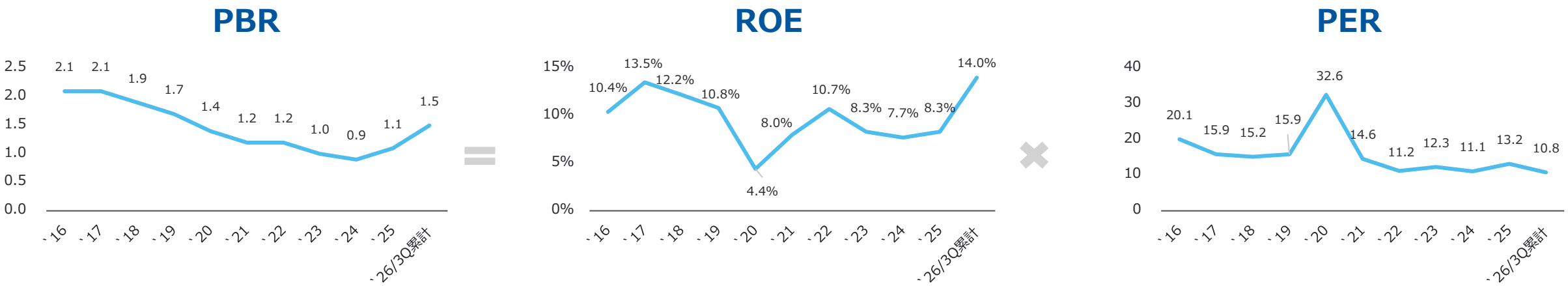
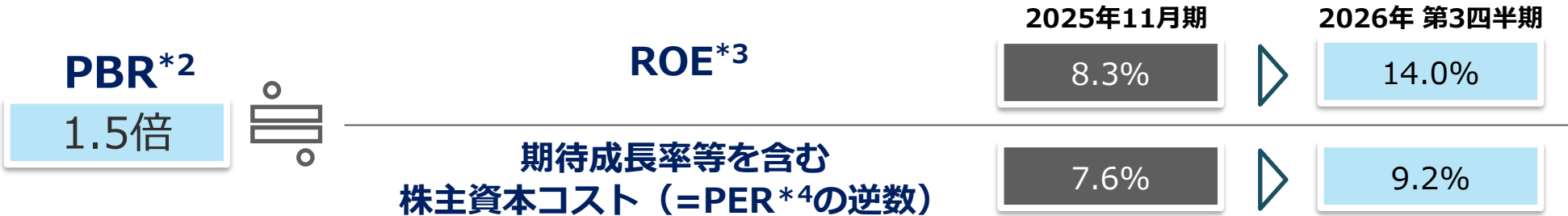


財務資本政策（現状）

更なる持続的成長と資本効率改善を通じて、中計Stage2に掲げるROE目標10%超を実現します。

株主資本コストを低減しつつ、それを上回るROEを目指す（＝エクイティ・スプレッド^{*1}の最大化）

*1: エクイティ・スプレッド = ROE - 株主資本コスト



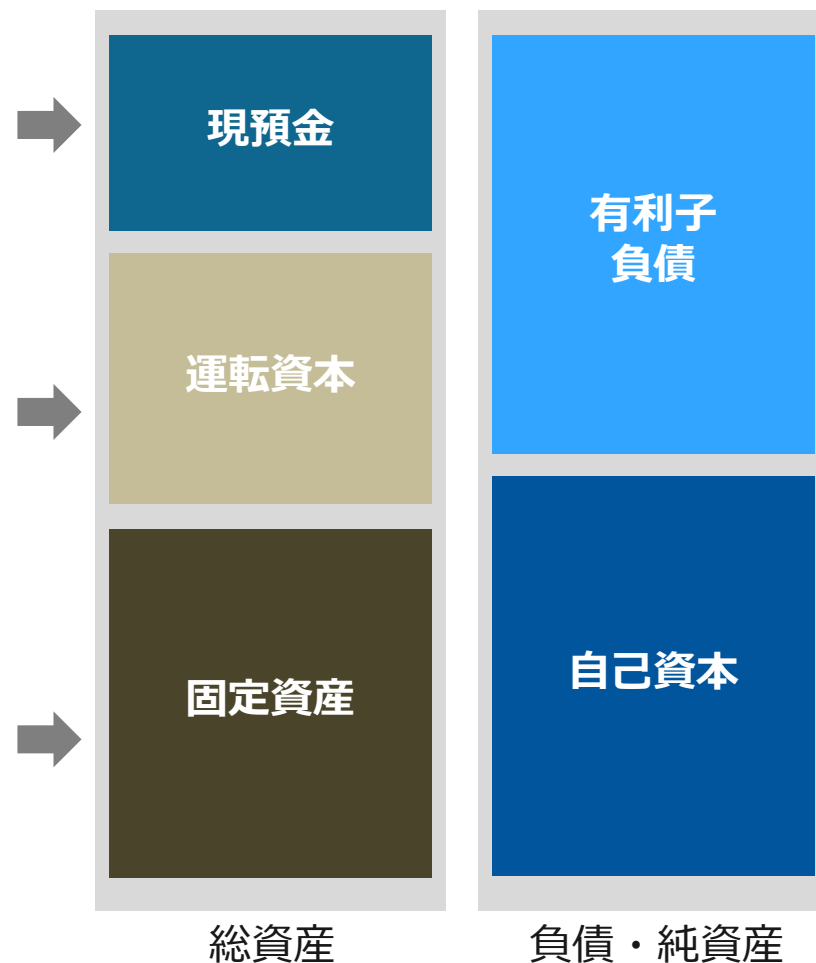
*2: PBR = 時価総額（自己株式除く）÷ 自己資本
*3: ROE = 親会社帰属当期純利益 ÷ 自己資本
*4: PER = 時価総額（自己株式除く）÷ 親会社帰属当期純利益
注1: 時価総額 = 株価（月末終値 ※年度末 or 四半期末）× 発行済株式数（自己株式を除く。※年度末 or 四半期末）
注2: 自己資本 = 純資産合計 - 新株予約権 - 非支配株主持分。期首・期末平均
注3: 算出基準日 = 株価は2026年8月31日の終値ベース。



財務資本政策

バランスシートの改革を行い、最適な成長投資と株主還元の強化を目指します。

- 成長投資（M&A、設備投資、研究開発費等）や株主還元を活用
- グループ内のキャッシュ・アロケーションの見直し
- CCC短縮によるキャッシュの創出
（在庫圧縮、回収・支払サイトの見直し）
【棚卸資産回転期間の目標】
2024年 4.4ヶ月
2030年 3.5ヶ月（目標）
- 減価償却費をベンチマークとした設備投資
- 政策保有株式の削減



- 負債の活用によるWACCの低減
- 最適な資本構成の追求

- IR活動を通じた株主資本コストの低減
- 株主還元の強化
（配当性向の引き上げ、自社株買い）

キャッシュフロー計画

戦略投資へ主に投入し、株主還元の強化も図り、財務構成を見直します。

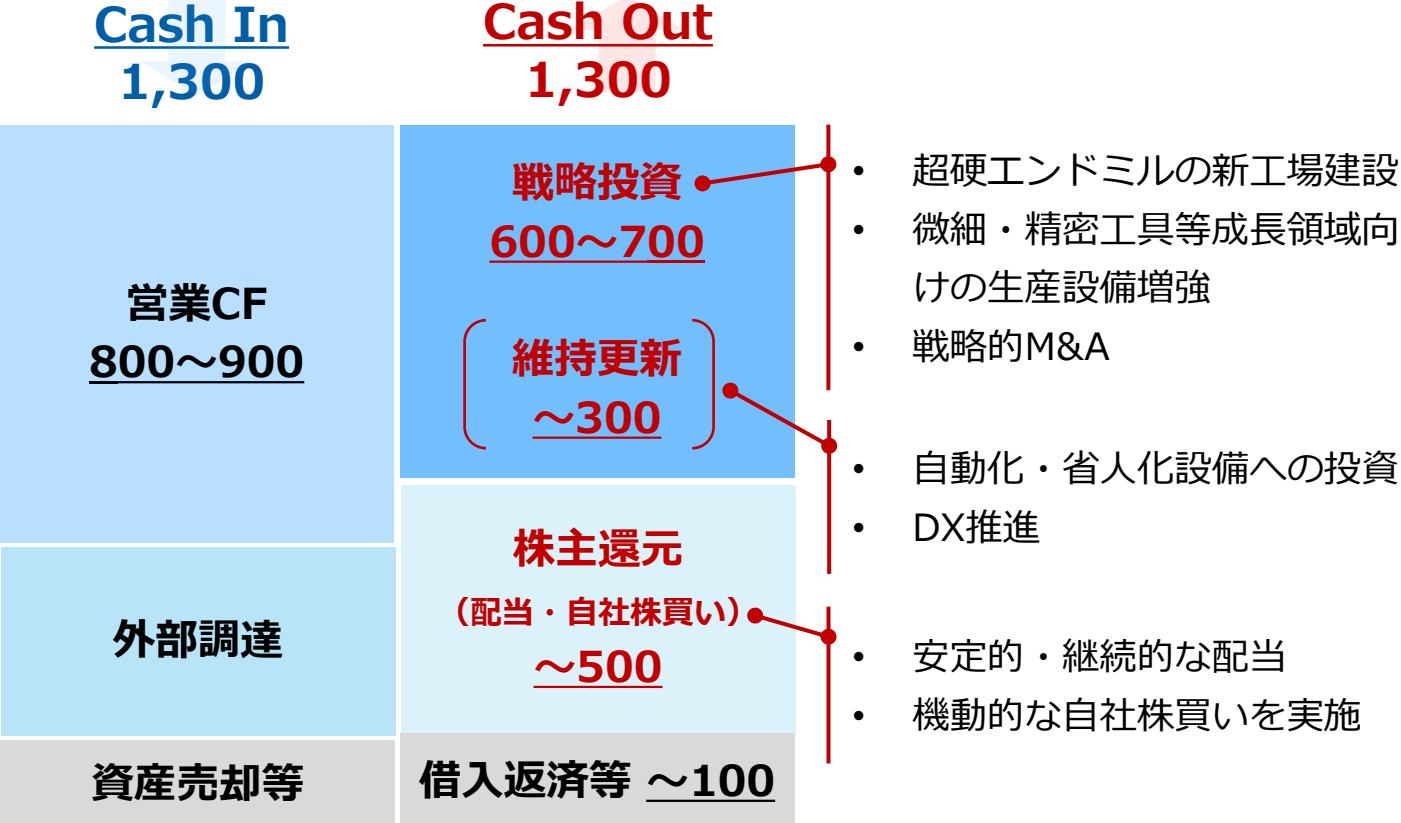
Stage1 実績 (2022年11月期～2024年11月期)

億円



Stage2 計画 (2025年11月期～2027年11月期)

億円

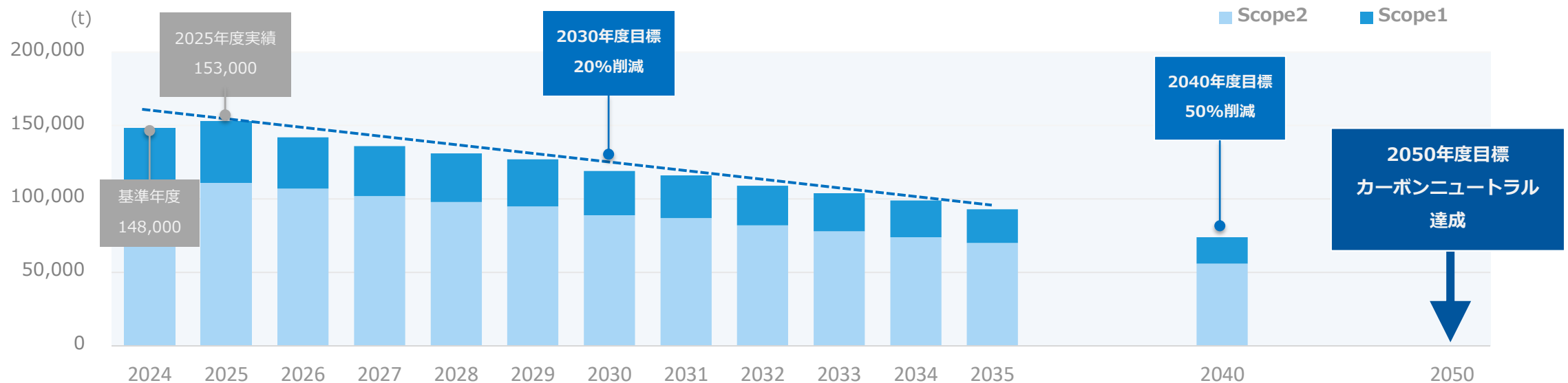


サステナビリティの取り組み

－カーボンニュートラルの実現に向けて－

オーエスジーグループは、CO₂排出量削減に向けた新たな全社目標を設定しました。
2030年に2024年度比20%削減を目指し、計画に基づく取り組みを着実に推進してまいります。

CO₂排出量削減ロードマップ（連結Scope1.2）



2026年 進行中の 取り組み

- **再生エネルギーの導入の推進**
2028年度オンサイトPPAの導入（大池新工場）
- **バリューチェーンCO₂排出量（Scope3）算定**
輸送（Cat4・Cat9）を中心に算定を推進

次の ステップ

- **2030年20%削減達成に向けて**
 - ・ 省エネ施策
 - ・ オンサイトPPA
 - ・ オフサイトPPA
 - ・ CO₂フリー電力・環境価値
- これらを組み合わせた
最適な削減ポート
フォリオを検討